

2009年3月18日

## 清風荘現地公開資料

—清風荘庭園の整備に伴う埋蔵文化財試掘調査—

遺跡名：名勝 清風荘庭園

所在地：京都市左京区田中関田町

調査期間：2009年2月～2009年3月

調査機関：財団法人京都市埋蔵文化財研究所

### 遺跡の概要

京都大学清風荘は、西園寺公望<sup>きんもち</sup>が控邸として使用した和風庭園をもつ建物群で、江戸時代末期建築の茶室、大正建築の主屋や離れなどの数寄屋建築は国の登録有形文化財に、庭園は名勝に指定されています。この庭園は明治44年（1911）から5年がかりで、7代目小川治兵衛が作庭したもので、明るく解放的な芝生の広場から望む大文字山、池の周囲に植えられた赤松やカエデなど建物とともに落ち着いた空間を形成しています。小川治兵衛は「植治」と呼ばれ、近代造園の先覚者として、明治時代後期から昭和初頭にかけて全国的な展開を見せ数多くの庭園を作りました。主な庭園に京都では山県有朋<sup>ありとも</sup>の無鄰庵<sup>むりんあん</sup>・對龍山荘<sup>たいりゅうざんそう</sup>・有芳園<sup>ゆうほうえん</sup>・白河院庭園<sup>なみかわけ</sup>・並河家庭園<sup>なみかわけ</sup>・平安神宮「神苑」・円山公園などがあり、京都以外では慶沢園<sup>けいたくえん</sup>（大阪市）・旧古河庭園（東京都）・有隣荘庭園<sup>ゆうりんそう</sup>（岡山県）などがあります。



庭園から見た主屋

### 調査の成果

今回の試掘調査は庭園の整備に伴うもので、園の東側を中心に、現在埋没している池の取水口や流出口、園路や築山の状況確認、北側にあるモルタル製構造物の性格確認などを目的に、7箇所の調査区を設けて実施しました。

以下、今回の調査で発見した主な遺構を調査区ごとに紹介します。

2-1区 モルタル製構造物は、赤煉瓦を積んで表面をモルタルで仕上げたもので、幅約35cmの帯がいくつかの方形区画を形成しています。調査によって地表から約1.2m下で底を見つけ、導水管が配置されていたことから水槽であることがわかりました。

また、水槽の東側では池を見つけました。この池は切石を組んだ上にコンクリートで作られています。取水口は見つかりませんが、清風荘の北に流れる太田川（現在は暗渠となっている）から水を引いていたと考えられます。

2-2区 水槽からの流出口と水路を見つけました。水路の両壁は赤煉瓦をモルタルで巻き、底はコンクリートで作られています。流れ出た水は中央の池に注ぐようになっていました。

3区 モルタルを巧みに使った池の護岸を確認しました。

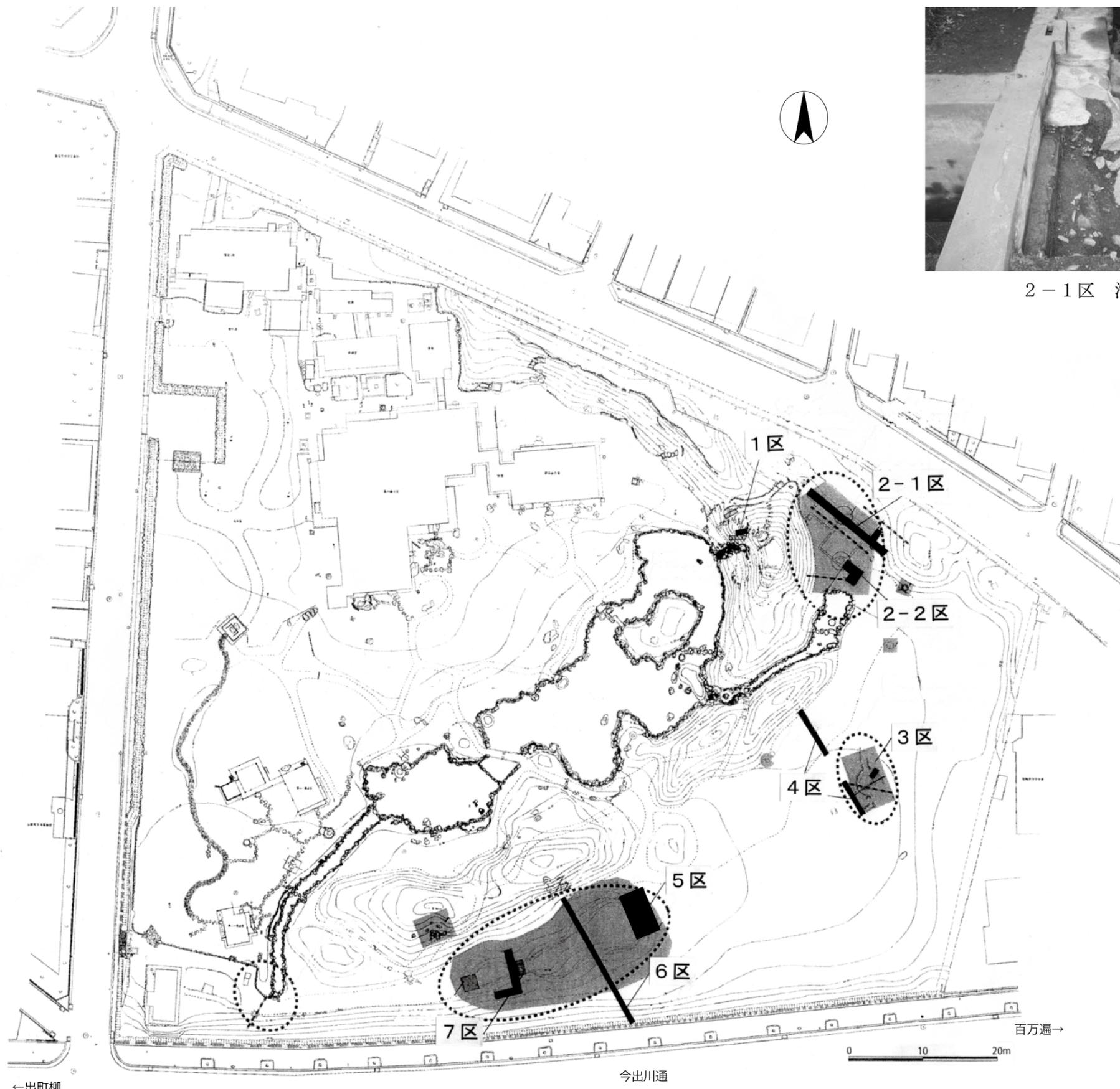
4区 園路を見つけました。園路には細かい礫が敷き詰められていました。

5区～7区 現在窪みとして残る旧池の調査です。5区では旧取水口である導水管を2本発見しました。導水管の下には粘土を貼り付け、水受けの石が据えられています。北側を断ち割ったところ、池の護岸を検出しました。

6区では南側の築山は近年に積まれたものであることがわかりました。

### まとめ

今回の調査は比較的新しい時期の文化財庭園を対象としたものですが、当初の目的通り、旧池の取水口や流出口、園路や築山の状況が確認できました。こうした庭園の調査にも考古学的手法が有効であることが証明できたことは大きな成果と考えられます。



2-1区 池の検出状況



2-1区 水槽全景



2-2区 水槽流出口



5区 取水口と受け石の状況